

2013 年度

「卓越した大学院拠点形成支援」プロジェクト

京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科アフリカ地域研究専攻

国内学会・研究会発表助成 報告書

ブルキナファソ農村における女性住民組織の「エンパワーメント」

—マイクロファイナンス利用と運営の事例から—

神代 ちひろ

開発援助を通して被援助者が社会的な発言力や交渉力を身につけたり、経済的な自立をすることは、エンパワーメントということばで表現されてきた。エンパワーメントは必ずしも開発援助側の計画どおりには達成されず、多くの場合予期せぬ副産物として実現することが指摘されている。しかしながら、特にアフリカ地域を対象とした実証的な研究は少なく、エンパワーメントがなされる過程や、それがどのような形で発現するかは十分明らかにされていない。これらが明らかになれば、住民を主体とした開発援助の、より住民に寄り添ったあり方を考える手がかりとなる。

そこで本発表では、主に現地調査(10 ヶ月)により収集したデータに基づき、ブルキナファソ農村における女性住民組織のマイクロファイナンス(MF)利用と運営を事例に、エンパワーメントがどのような形で発現したか、また、その過程を明らかにする。分析対象とする組織は、複数の MF 機関に対して、機関側からみると型破りな交渉を行ない、一定の成果をあげてきた。さらに、複数の MF の自主運営も始めていた。これらを開発援助側が意図しなかった形での「エンパワーメント」の発現と位置づけ、初期から現在までの当該組織の活動を概観し、これらを可能にした要因を考察する。そして、複数の開発援助を受けた経験だけでなく、ブルキナファソ農村地域に伝統的に存在する共同労働組織の連帯がエンパワーメントの原動力になっていることを指摘する。